

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 44

学校名・団体名	東海特別支援教育カンファレンス（岐阜ブロック）
HPアドレス	http://www.geocities.jp/tokai_conference/
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	AT 活用講座と製作ワークを通じた特別支援の広がり
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>学習会において知識を収集するだけでなく、実際に支援する子どもたちのことを想像しながら支援機器を製作する機会を設定するため、参加者のスキルアップにつながると考える。また、参加された方が各現場において製作した支援機器や、支援方法等を用いて児童生徒が主体的に活動する機会を創出することも期待している。さらに、セミナー参加者のつながりによって、教員や支援に携わる人同士が支援機器や支援方法について相談できる関係が創出され、より児童生徒の活動が活発になることを期待している。</p>	

1. 時期、内容

当団体では、助成金を活用してAT（支援機器）活用講座を愛知・岐阜・三重の三か所で開催した。各セミナーの詳細は以下の通りである。

① 12月9日（土） 岐阜会場（会場：岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校）参加者：110人

【講演】

金森克浩氏（日本福祉大学教授）「スイッチから広がる世界～AT（支援機器）の活用と実践～」

【体験セミナー】

- ・視線入力機器体験（大杉成喜：皇學館大學教授）
- ・布ぞうり製作（岐阜県特別支援学校教諭）
- ・ICT相談コーナー（金森克浩）
- ・実践発表 ロボット（OriHime）を活用した実践事例（岐阜県特別支援学校教諭）
- ・企業展示 にじむすび（OriHime 展示）、松本義肢製作所（momo 展示）、パナソニック（支援機器展示）

② 1月20日（土） 愛知会場（会場：日本福祉大学名古屋キャンパス）参加者：70人

【講演】

渡辺崇史氏（日本福祉大学教授）「生活・教育・就労に活かすテクノロジー活用と大切な視点～相談事例から学ぶ～」

【実践発表】

- ・実践発表1 ICTを導入してみよう（愛知県特別支援学校教諭）
- ・実践発表2 ICTを生かした授業（三重県特別支援学校教諭）
- ・実践発表3 ロボット（OriHime）を活用した実践事例（岐阜県特別支援学校教諭）

【体験セミナー】

- ・視線入力機器体験（大杉成喜）
- ・ICT相談コーナー（渡辺崇史）
- ・自作教材展示

③ 2月17日 三重会場（三重県立くわな特別支援学校）参加者120人※くわな特別支援学校と共同開催

【講演】

高松崇氏（NPO法人支援機器普及促進協会理事長）「Children First!～子ども達を中心にICT活用の可否について考えてみよう！」

石井幸仁氏（三重PECS研究会代表）「伝わる！笑顔が広がるコミュニケーション支援♥」

篠原大一氏（TASUC 豊橋教室長）「発達障がいのある子どもたちのチャレンジを支えるために3」

【体験セミナー】

- ・視線入力機器体験（金森克浩）
- ・実践発表 ロボット（OriHime）を活用した実践事例（松浦：可茂特別支援学校教諭）
- ・ICT活用ワークショップ（高松崇）
- ・企業展示 ブックターナー展示、マスターケア、チェーンブランケット展示

※各会場共通のセミナーとして、支援機器製作会を開催した。製作した支援機器は以下の通り。

「棒スイッチ」「プッシュライト型スイッチ」「おにぎり型スイッチ」「BDアダプター」「ラッチ&タイマー」「ACリレー」「おもちゃの改造」「おにぎり型VOCA」「球形VOCA」「マウスの改造（スイッチ入力対応）」

2. 成果

今回のセミナーの参加者は特別支援教育に関わる教員だけでなく、障がい福祉に関わる施設職員、理学療法士や作業療法士、訪問看護に携わる医療従事者、当事者及び家族の方にも幅広く参加していただけた。また、参加地域も東海地区だけでなく東京や神奈川、大阪、兵庫等、遠方からも参加していただくようなセミナーとなった。参加者アンケートにも、「iPadの活用方法について明日から勤務校で取り組んでみます（特別支援学校教諭）」「製作会で作ったスイッチで子どもと遊んでみます（当事者保護者）」「支援機器の導入方法について今後も相談できるつながりができた（施設職員）」と、おおむね良かったという評価を受けた。また、製作会についても、参加者のほとんどが電子工作の経験がないにも関わらず、製作希望したものをすべて完成することができた。これについては参加者アンケートでもおおむね良かったという評価をいただいた。また、製作会中に教員や保護者から「どのようにスイッチや支援機器を導入し、どんな活用方法があるのか？」といった質疑応答が活発に行われ、今後の教育等に参考になったという評価を受けた。

3. 次年度に向けて

今回の助成金で製作会の工具等を取りそろえることができた。次年度以降の製作会に活用していきたい。また、今後も東海地区でAT活用講座を開催していきたい。